

夢の力

「ホーキング博士みたいに成らせてください！」

中1の入塾面談の際である。入塾の意味も確認し終え、最後に氏名等を登録用紙に記入していただいていた時、「要望」欄にさしかかったお母さんがMちゃんに「何かある？」と促すと、彼女はそう言った。臆することなくまっすぐな目で私を見つめて。「じゃあ、しっかり頑張ろうね！」（成らせてもらうんじゃない、自分で成るんだよ。塾は導いてあげるだけ。）心の中で思ったが、実際はまだ小学生。この塾で先生に言われるとおり頑張ればきっと成れるんだと希望に胸を膨らませているこの子には、笑顔で“頑張ること”だけを伝えた。

大きな大きな夢である。無類の読書好きの彼女の事だから、この「車椅子の天才宇宙物理学者」の世界的な大ベストセラーである「ホーキング、宇宙を語る」もすでに読んでいたのかもしれない。堂々と夢を語るMちゃんを見て、私はすがすがしさを感じていた。

Mちゃんはすばらしく理解力があつた。授業の内容をおもしろいほどに吸収していく。そして一度吸収したものは理解度が深いためか、きちんと自分の中に留めておいてあまり忘れることもなく、必要な時が来れば取り出す、そんな何ともうらやましい力を持っていた。おまけに解法をひらめく発想力も優れていたもので、応用問題にはめっぽう強かつた。・・・ただ、こういう子にありがちなことではあるが、こつこつと努力をすることやじっくり丁寧に問題に取り組むということは苦手だったのだ。問題をよく読まないことによるミスが、いつまでたってもとれない。さらにはある程度時間をかけて練習して覚えなければ合格点の取れない英語のパートテストにも腰を据えて取り組めなくなり、ついには3回連続不合格となってしまった。親御さんを交えての退塾前提の面談の中、Mちゃんは言った。「やっぱりここで頑張りたいです。もう一度だけチャンスを下さい。」と。入塾の時とは明らかに違う、真剣に覚悟を決めた目だった。

そこからの彼女は約束通りやるべきことはきちんとやった。パートはもちろん合格し続け、数学の応用プリントなど誰よりも早く提出してきた。期限に間に合わないものができた時は正直に私に謝り、自ら提出日を伝えきっちり仕上げてきた。人に対して嘘はつかない、ごまかさない、格好もつけない、とことん正直で誠実なところが何よりの彼女の美点だ。

崩れそうになった時、彼女を踏ん張らせたのは夢の力だろう。中1から一度もぶれることなく志望していた向陽の国際科学科。宇宙を夢見られるこの学校で、「楽しくて仕方がない。」と、今、キラキラとした目で毎日を過ごしている。彼女の宇宙への想いは果てしなく広がっていく。